

氏名（本籍）	さかえ だ きぬ よ 榮 田 絹 代（熊本県）
報告番号	甲第28号
学位の種類	博士（健康福祉学）
学位記番号	健康福祉博甲第28号
学位授与年月日	2024（令和6）年9月11日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当（課程博士）
学位論文題名	乳幼児期の第一子育児中の母親に対する ロールレタリングの効果に関する研究
論文審査委員	主査 教授 佐々木 直 美 副査 教授 田 中 マキ子 副査 教授 中 村 文 哉

論 文 要 旨

乳幼児期の第一子育児中の母親に対するロールレタリングの効果に関する研究

本論文は、乳幼児期の第一子育児中の母親に対するロールレタリング（以下 RL と略する）の効果を明らかにすることを研究目的とした。

乳幼児期の第一子を育てている母親は、特有の育児不安を持つといわれ、精神的に不安定になりやすい。国も産後ケア事業など、育児中の母親への支援の仕組みを整えているが、その多くが母親自身で出向いて支援を求めていかななくてはならないものである。子育て中の母親は、子どもの世話のために、自由に外出できないことを考えると、母親が活用しやすい支援の方法を検討する必要がある。その支援の方法として RL に着目した。RL は、役割交換書簡法といわれ、自分自らが自己と他者という両方の視点に立ち、役割を交換して手紙を書くものである。この往復の書簡を自分自身で行うことで、自身の内省を促すとともに、相手の立場になることで、新しい視点から自分を見つめ、自己及び他者理解が促進され、自己を受容していくものである。この RL を、第一子育児中の母親に活用し、その効果が明らかになれば子育て支援のツールとして活用できると考え、本研究に着手した。

本論文は全4章の構成である。第1章では、第一子育児中の母親を取り巻く現状と課題について、育児中の母親への支援に関する文献検討、並びに RL に関する文献検討を行い、本

研究の意義と目的を示した。第2章では、就園前の第一子育児中の母親6名に対しRLを3回実施した後、半構造化面接を行い、得たデータをKJ法により分析し、RLの効果を経験化した。また、RLに書かれた手紙の記述内容の変化を検討した。第3章では、0歳児の第一子育児中の母親26名に対し、RL3回実施群と対照群におけるランダム化比較対照試験からRLの効果の検証を行った。また、第2章と同様に、RLに書かれた手紙の記述内容の変化を検討した。第4章では、第2章、第3章で得られた知見から、乳幼児期の第一子育児中の母親に対するRLの効果について総合考察を行った。

これらの研究の結果をまとめると、乳幼児期の第一子育児中の母親が、自己と他者である子どもとの往復の書簡であるRLを3回繰り返すことによるRLの効果は、手紙の相手である子どもに向かって制限を設けず自由に書くため、自己の感情を素直に表出することから自然と自分らしさを肯定できる。また、返信で子どもの立場に立って書くことにより、子どもの目線から、子どもの気持ちに気づくことができる。こうした営みは、子どもへの気持ちの肯定的感情の高まりや、母親自身の状態自尊感情の高まりにつながる。そうした感情の変化は、第一子を抱える母親にとって、自身の育児を認めることや、自信となる。そうした自信は、母親が親子の交流の場や、保健師などの相談の場に出向くといった外界と繋がる意欲と行動の変容につながる可能性があることが示唆された。

Abstract

A Study on the Effectiveness of Role Lettering on Mothers Raising Their First Child in Infancy

This study examined the effects of role lettering (RL) on mothers raising their first child in infancy.

Mothers raising their first child in infancy experience unique childcare anxiety and are prone to mental instability. The Japanese government has set up support systems for mothers raising children, such as postpartum care programs; however, many of these require mothers to go out to seek support. Considering that mothers raising children are unable to go out easily, it is necessary to consider ways to provide support that are more convenient for mothers. We focused on RL as a method to support this. RL is a role-exchange letter method in which one writes a letter from the perspective of both oneself and others, in this case, the mother and the child, respectively. By conducting this back-and-forth correspondence alone, one encourages self-reflection. Putting oneself in

another person's shoes allows one to look at oneself from a new perspective, promotes an understanding of the self and others, and encourages self-acceptance. This study hypothesized that RL could be utilized by mothers raising their first child, and if its effectiveness could be clarified, it could be used as a tool to support child-rearing.

This paper consists of four sections. Chapter 1 presents the current situation and issues surrounding mothers raising their first child, a literature review on support for mothers raising their children, a literature review on RL, and the significance and purpose of this study. In Chapter 2, semi-structured interviews were conducted after RL was administered thrice to six mothers raising their first child before preschool. The data obtained were analyzed using the KJ method to structure the effects of RL. We also examined changes in the description of letters in the RL. In Chapter 3, we examine the effects of RL using a randomized controlled trial in a group of 26 mothers raising their first 0-year-old child in a group of three RLs and a control group. We also examined changes in the description of letters in the RL. Chapter 4 provides a comprehensive discussion of the effects of RL on mothers raising their first child during infancy based on the findings in Chapters 2 and 3.

In sum, the effects of RL done thrice by mothers raising their first child in infancy are as follows. First, mothers write freely to the child, the letter recipient, without restrictions, thus express their feelings honestly; this naturally allows the mother to affirm her own identity. Second, by writing from the child's perspective, the mother can think of how the child feels. These activities led to an increase in the mother's self-esteem and positive feelings toward the child. Such a change in feelings gives the mother of a firstborn child a sense of recognition and confidence in her parenting. The results suggest that such confidence may lead to behavioral changes and willingness to connect with the outside world, such as mothers visiting places for parent-child interaction and consultation with public health nurses.

審査結果

はじめて子どもを育てる母親は、育児不安やストレスを抱きやすく、第二子以上育児中の母親に比べて友人等からのサポートが少ないという問題がある。本研究の目的は、第一子育児の母親に対して、子育て支援の方法としてロールレタリング（以下、RL）が活用できないかという考えのもと、RLの効果を検討するものである。研究成果として、①就園前の第一子育児中の母親に対するRLの効果の構造をKJ法で分析し、RLを通し母親が素直な感情の表出ができ、自身の育児の肯定と子どもの立場に立った視点の獲得がみられたこと。②0歳児の第一子育児中の母親を対象にRL実施群と対照群にわけたランダム化比較対照試験により、実施群で0歳児への気持ちの肯定的感情の向上、状態自尊感情の向上がみられたこと。③RLに書かれた内容の分析により「内言・内省・気づき」に変化がみられたことである。こうした新たな知見が得られたことは、第一子乳幼児を持つ母親のメンタルヘルス支援への可能性を示唆するとともに、本研究の独自性を示すものである。

0. 副論文の作成：本人筆頭の査読付き論文（役割交換書簡法・ロールレタリング研究, 6, 41-52, 2023）を確認した。
1. 研究課題の明確化：題目の内容で論文全体が一貫していた。
2. 先行研究の適切な検討：RLのベースとなったゲシュタルト療法に関して、もう少し詳細な記述が必要との意見があった。
3. 研究方法の適切な選択と実施：倫理的配慮のもと、質的、量的視点から検討を行われてきたが、KJ法の結果の見方に関する記述の説明をもう少し丁寧に示すことと意見があった。
4. 新たな知見の提示と学問の発展への貢献：今後の子育て支援において有用かつ新たな知見が得られた。
5. 文章作成能力：論文全体の体裁並びに文章の表現は概ね整っていたが、一部誤字等がみられたため製本に向けて修正する。

最終試験では、質問に対して、適切な回答が得られた。

以上の所見を総合して、上記の者は博士論文審査及び最終試験に合格したものと認める。